

特別展 「すもう今昔」

…^{ひもと}日の本を踏みかたむるは相撲かな…

会期:平成19年2月3日(土)～3月21日(水)

相撲は国技ともよばれ、多くの日本人に愛され続けています。その歴史は古代から現代まで連続と続き、興行として行われている大相撲以外にも、一般の人々の生活と深く結びついた相撲行事が数多く存在します。日本人にとっての相撲は、地域を代表する力士が激突する「競技」であるとともに、その美を愛でる「芸能」であり、神意を占う「祭儀」でもあったのです。

本展では、相撲の歴史や相撲行事に関する多くの分野にわたる資料を展示し、日本人にとっての相撲の意義を紹介します。また、本県出身の名力士や県内各地に残る資料、奉納相撲の記録ビデオ上映等を通して、本県と相撲の深いつながりを紹介します。会場は、次のような三部構成です。

第一部 相撲とは？

土俵上での力士の所作には、「四股を踏む」「水で口をすすぐ」「塩をまく」等いろいろなものがあります。それはみな、相撲が単なる力くらべの競技ではないことを示しています。地を鎮め、災厄を除き、豊作を祈って行われた相撲の意義を現在に伝えているのです。

まず、「相撲は何のためにとるのか？」といった素朴な疑問をとりあげ、本展のテーマを考える手がかかりとします。



国技館における「土俵祭」

第二部 すもう今昔…相撲の歴史と民俗…

日本人は、古代から現代まで途切れることなく、相撲と深い関わりを持ち続けてきました。神話で語られる神々の力比べ、古墳時代の力士埴輪、奈良・平安時代の相撲節会、江戸時代の勤進相撲など、約千五百年に及ぶ相撲の歴史を概観します。また、歴史の各場面で生み出された相撲に関する行事や人形・玩具など、庶民の生活にとけ込んだ相撲文化を紹介します。

歴史は時代順に、文化は項目ごとに資料を展示します。



「力士埴輪」(泉崎資料館蔵) 伏見人形「角力士偶」(個人蔵)

第三部 茨城のすもう

茨城県出身の第7代・稲妻雷五郎(江戸期・稲敷市出身)、第19代・常陸山谷右衛門(明治・大正期・水戸市出身)、第34代・男女ノ川登三(昭和期・つくば市出身)の三横綱を中心とした郷土力士や名行司として名高い立行司・第十九代式守伊之助(昭和期・ひたちなか市出身)の足跡を紹介します。

また、延方相撲(潮来市)・化蘇沼稻荷相撲(行方市)・鹿島神宮相撲祭(鹿嶋市)等の県内各地の相撲行事を、実物資料・写真・ビデオ等で紹介します。



「延方相撲」(潮来市)

… 関連行事 …

講演会…2/18(日) 杉山 邦博氏(日本福祉大学生涯学習センター長、客員教授、元NHKアナウンサー) 定員200名申し込みしめきり 2/2

「大至の相撲甚句」鑑賞会…3/4(日) 下家義久氏、大至伸行氏 定員200名申し込みしめきり 2/16

申し込み方法

往復はがきに参加希望行事名・住所・氏名・電話番号を明記の上、教育普及課までお申し込みください。(1人1枚 申し込み多数の場合抽選)

すもうミニ講座&展示解説

2/11(日) 24(土) 3/11(日)

定員200名(参加自由)